

No.62 contents

- 1 第97回二科展開催 総評
- 2 〈絵画〉総評・展示・受賞者一覧
- 3 絵画部審査・新会員自己紹介
- 4 受賞作品 自作自評
- 9 〈彫刻〉総評・審査・新会員自己紹介・受賞者一覧
- 10 受賞作品 自作自評
- 12 event memo(セレモニー・イベント 広報)
- 13 二科展ガイドツアー・ギャラリートークから
- 14 搬入状況・チャリティー活動報告
- 15 写真部・デザイン部 巡回展・春季展日程
- 16 織田廣喜先生 墓参の報告 事務局だより 短信 編集後記



2015年 二科展は
100回展
を迎えます

秋季

発行人:田中 良 発行:公益社団法人 二科会
http://www.nika.or.jp/ TEL:03-3354-6646



第50回展覧会(1965年) 入場券(表・絵)東郷青児

第97回 二科展開催



展覧会総評

田中 良

猛暑の中、第97回二科展も、入場者10万2千有余と盛会裡に終了出来たことを、皆さんと共に喜びたい。盛会の要因として、先ず理事会、事務局を中心に、各部門での企画、運営が適切であったこと、全会員が心を一つにして、御苦労されたこと。彫刻部は勿論のこと、写真部、デザイン部との揺がぬ協力関係等々。台風が来なかったことも幸いでした。

輝かしい歴史と伝統を持つ二科会が公益社団法人となつて初の二科展の審査に招聘した美術評論家の本江邦夫氏は、審査方法や、受賞者の決め方も、徹底した公平な選挙で行われていることを、他の美術団体にはない希有なことだと、賞賛されました。人間の集団ですから、これが最善とはいえないが、微調整しながら続けていきたいと思ひます。(2頁へ)



会場に目を移すと、なんと陳列にゆとりと爽やかさと力強さを感じられ、入場者も心地よさそうに鑑賞していた。香川猛委員長はじめ、各階の陳列担当会員も、責任をもって陳列に骨折られた結果だと思えます。

本年は新人育成の為、U35(35歳以下)奨励室を設け、新人賞もつくっての呼びかけに、なかなか良い作品が集まりました。ギャラ

リートークも担当会員は苦労様でしたが、年々参加者も増え、盛況になってきました。

又昨年に続いて、大震災地に、絵画、彫刻の理事等7名が現地を訪れ、小学生に夢と希望の大作を描かせ、復興への一助にと、汗を流してくれました。

チャリティー作品も多く集まり、写真部会員のご協力もあり、年々盛んになってきました。まだ他に出来ることは沢山あると思いますが、公益社団法人としての役目を果たしていく考えです。

見学者からは、二科展は作品が、具象、抽象といろいろあつて面白いという。私は現代美術といわれる作品や具象画にしても、孤独な営みですから、右顧左眄することなく、己の道を、真摯に歩むことによつて、類型的な作品も生まれず、人々の心に深く刻まれることと思えます。

二科展もあと3年後には100周年を迎えますが、よかったですよかったです、自己満足はしていただけません。ひと休みをしたならば、再び大いなる希望に向かって、邁進しましょう。

展(絵画)

伝統と格式ある作品展示

香川 猛

猛烈な残暑が続き、一時は入場者数があやぶまれたが、思いの外、第97回二科展は連日賑わいを見せた。

東京都美術館での春季展は昨年度の受賞者や若手シード作家の作品を前面に打ち出し、新鮮で魅力ある展示会を目指して成功した。

今回の二科展は伝統と格式ある展示を心掛けた。二科は3年後の2015年に100周年を迎える。永い歴史ある実績と伝統を持つているので、それを今回の展示のコンセプトとした。

1階の1室と2室には理事などの重鎮作家や内閣総理大臣賞の作品を展示した。14室には前衛を理念とした昔の九室会に当たる斬新な作家の作品を、15、18室には会員推挙や2点入選作家の作品を並べた。3階の11室と12室にはU35奨励室を設け若手のモチベーション



を高める工夫をした。また昨年同様、震災で被災した福島の子供たちが描いた夢のある大作を展示できた。シンプルなお展示もさることながら、各種イベントも盛り上がり、作品集も評判が良く、総合した結果、入場者が10万人を突破したことは喜ばしいことです。

第97回二科展受賞者氏名(絵画部)

内閣総理大臣賞

粕谷 正一(石川)

二科賞

吉田 豊彦(長崎)

パリ賞

山崎 美恵子(佐賀)

損保ジャパン美術財団賞

合田 紘露胡(愛知)

上野の森美術館奨励賞

竹川 洋子(神奈川)

会員賞

安食 広由(埼玉)

入佐 美南子(京都)

祝迫 正豊(鹿児島)

江崎 榮彦(岐阜)

山岸 睦(石川)

会友賞

浅井 泰雄(京都)

石崎 琇子(千葉)

石本 香織(群馬)

稲増 克彦(奈良)

小島 義男(愛知)

渋谷 良子(千葉)

鈴木 三喜男(茨城)

長嶺 宏子(千葉)

根木 悟(京都)

廣木 秀夫(新潟)

光谷 良一(兵庫)

特選

秋元 克文(千葉)

吾田 弘子(神奈川)

岡部 桃子(千葉)

小川 工(東京)

君塚 彦四郎(千葉)

木村 民治(千葉)

久我 佳恵(長崎)

草間 俊雄(長崎)

さとう のりこ(神奈川)

清水 尚子(神奈川)

鈴木 真木子(茨城)

高橋 明美(愛知)

高橋 徳子(栃木)

田上 俊一(熊本)

田原 馨(広島)

長野 哲也(静岡)

野久保 由美子(東京)

橋本 和栄(石川)

的場 五十彦(京都)

牟田 志津子(福岡)

新人奨励賞

井上 練子(京都)

田中 とも恵(和歌山)

田辺 美穂子(滋賀)

会員推挙

上原 さつき(神奈川)

加藤 ひとみ(千葉)

佐々木 里華(東京)

永吉 規公子(神奈川)

会友推挙

岩下 百合(鹿児島)

小野 由紀子(福岡)

片岡 佐智子(千葉)

佐々木 実(岩手)

世古 明子(静岡)

高見 愛(熊本)

田中 昌美(兵庫)

鳥谷 啓子(兵庫)

宮地 優子(大阪)

山田 武雄(千葉)

吉金 幸枝(東京)

審査(絵画)

第97回二科展

絵画部審査経過

生方純一

5日間におよぶ審査会について経過を報告いたします。

会友、一般出品作品については全会員で審査しているため、審査の様子は広く理解されていると思います。しかし大臣賞、会員賞については理事と複数の外部審査員で行っており、どんなシステムになっているのか選考経過を知りたいという声がありますので、今回の審査を例にとって説明いたします。

最終日に審査した内閣総理大臣賞、会員賞選考は理事13名(2名欠席)と外部審査員として美術評論家の瀧梯三、本江邦夫氏を招いて15名による選考会となりました。はじめに会員賞の選考を行い、受賞該当作品58点を対象に、全作品の中から第一次選考では審査員から声のかかった作品に対して過半数の8名以上が挙手した作品13点を一次候補として残し、第

二次選考の投票で5点に絞り込まれ、江崎榮彦、入佐美南子、安食広由、祝迫正豊、山岸陸の5名が会員賞に選ばれました。大臣賞選考では、先ず過去に大臣賞を受賞している作品14点を展覧し、その後選考対象となる会員賞受賞

作品83点を順次展覧。審査員から声のかかった作品に対して過半数の挙手のあった作品8点を第一次候補としました。第二次選考では各審査員は候補作品2点記入で投票を行い得票数の多い上位5点に絞り込まれました。第三次選考では各審査員は1点記入で投票。開票結果、最高得票の粕谷正一(石川県)に内閣総理大臣賞の授賞が決まりました。

その他、会友、一般作品の審査で気になったことに関し少し触れます。初日は会友の既受賞者から、会員推挙、特別賞、2点入選の候補作品を挙げることから始めました。次に会友の未受賞者、一般の既受賞者、一般出品の未受賞者作品と審査を進めていきましたが、その中で気になったのが出品規約に違反したサイズの組み合わせや額縁の問題で2点入選、賞候補に挙がった作品が



絵画部会員 審査室にて

取り消された例が多かった。優秀な作品も含まれていたのでも事務局からもその旨連絡し、注意を促すとともに、各支部などでも十分に指導していくこととしましたが、情状を斟酌しすぎるとそれが前例となり、示しがつかなくなるといことから厳しくせざるを得ませんでした。

会員推挙、会友推挙では予定していた人数の半数にも満たなかったが、その他の授賞候補はほぼ予定していた数になり、審査後の理事会で違反行為などの有無やデータに基づいた確認をして各受賞者を承認しました。

を繰り返して、努力してまいりました。この絵で、私のたった一つの夢、二科会会員になれたことはこの上ない喜びであります。今後更に研鑽を深め精進したいと思います。



加藤ひとみ (絵画)

17年前、憧れの二科展に出品したくて50号2枚担いで上野まで電車で行ったことを懐かしく思い出します。そして感激の初入選。その頃のただ対象物を見て描くことから、少しテーマに沿って描くことへの変化、そして一瞬のひらめきも大切なコンポジションに。



永吉規公子 (絵画)

この度は会員推挙いただき心より感謝しております。有難うございました。作品制作に関しては、常に自分との対峙であり戦いでした。これからも自分を見つめながら、己の内なる声を大事にしてキャンパス上に表現出来たらと思います。納得出来る作品作りを自らに課していくつもりです。道のりは厳しくても一歩ずつ歩みつづけようと改めて心に誓っております。

会員になって
——自己紹介——



上原さつき (絵画)

幼少期の思い出は、蚕の繭に包まれた生活でした。大人になり美しい反物に変身することが解り、益々天蚕の虜になりました。



佐々木里華 (絵画)

イメージして描いている人物は、私自身かもしれない。

受賞作品 自作自評



損保ジャパン美術財団賞 想D F100
合田 紘露胡



パリ賞 ハーモニー F100
山崎 美恵子



二科賞 コンポジション F100
吉田 豊彦



特選 生きるⅢ F100
秋元 克文



上野の森美術館奨励賞 ナニモ ナイ。Ⅱ F100
竹川 洋子

コンポジション

吉田 豊彦

部屋に差し込んだ朝日が白いキャンパスに窓枠の影を映す。これを元に直線による画面構成の着想を得た。色数の制限と縦の線を強調して単純化と力強さをねらいとした。ある方が枠に閉じ込められた作者の思いが表現されていると評された。今後はこの枠から飛び出したいと考えている。

ハーモニー

山崎 美恵子

長い間、どこにでもある食卓上の情景を描いてきましたが、それだけではありふれていて、ついつい物を描きすぎていました。今回、多様な生活空間を造形化する事に心がけて制作しました。色彩の対比に不安がありました。『まあいいか』と出展しましたが、嬉しかったです！

選んでいただいた事に心から感謝申し上げます。

想D

合田 紘露胡

一人一人 それぞれ自由に、独創的な絵の評価が来ればと想い。奥には色々な建物があり、人物も……奥深くみつめて、何か思想出来ればと、又、遠近の色彩をやさしく表現してみま

した。

これからも制作に励みたいと思います。

ナニモ ナイ。Ⅱ

竹川 洋子

昨年の大震災、くり返しテレビで放映される惨劇。何もかも飲みこんで流されていく風景。でき上がった絵を見て感じた事は、ナニモ ナイ。空白の心象風景です。でも強烈には描きたくなく、静かに祈りを込めて表現しました。皆様に伝われば嬉しいです。人間は強い、きつと再生してくれるという明日への希望もこめて。

生きるⅢ

秋元 克文

この度は、特選を受賞させて頂き本当に有難うございました。私は、ここ数年「生きる」をテーマに描いております。自然界は弱肉強食の世界で、サバンナに住む野生動物は、日々変わる自然環境と捕食者からの恐怖と緊張の中、生きています。捕食者も生きるために食す。また、弱者も時に大きな敵にも立ち向かう。そんな野生動物の力強い生命力を表現したく制作しました。まだまだ思う様に表現できませんが、躍動感ある生きた絵を描いていきたいと思えます。

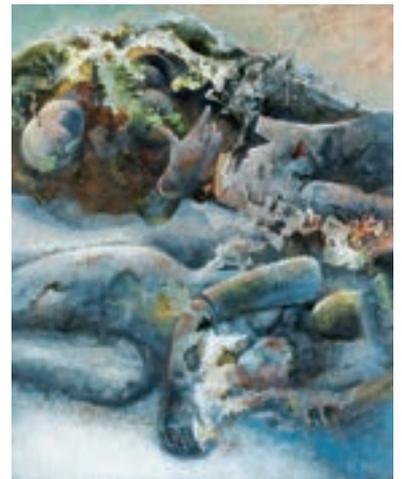
受賞作品 自作自評



特選 風の音(I) F100
牟田 志津子



特選 記憶2 F100
岡部 桃子



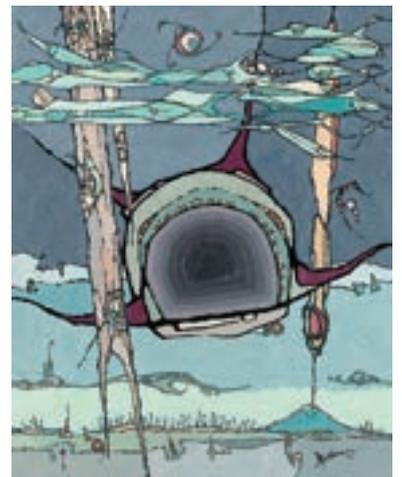
特選 ミステリー-I F100
吾田 弘子



特選 界II F100
鈴木 真木子



特選 廃屋E F100
君塚 彦四郎



特選 FUGEN・湯仰 F100
草間 俊雄

風の音(I)
牟田 志津子
「鳥」をテーマに11年、特選をいただき驚いています。毎朝散歩で見る風景が新幹線の開通で環境も一変。素早く順応するハトのやわらかさと、構造物の力強い形のおもしろさ。まだ未熟で表現できていませんが、さらに努力します。ありがとうございます。

界II
鈴木 真木子
受賞の知らせに驚き、それはいつも迷いながら描いている私に勇気を与えていた。多くものでした。都市の高層ビルや高速道路等に興味を持ち、この都会の空の下、どのような日常が行われているのだろうか、と思いをめぐらしながら描いております。

記憶2
岡部 桃子
ここ数年、印刷物をカラージュシ色をぬり、偶然見えるものを探しますが、見えず、これを繰り返し結局全てはがし、たまに、はがし跡等に面白いものを見つけた時は、わくわくしますが、偶然には偶然には見付けられないものと思ひ知らされ続けております。

廃屋E
君塚 彦四郎
昨今ほとんど見られなくなった茅葺屋根の廃屋を後世の為に書きのこしておきたいと思ひ、数年描いて参りました。この度特選という賞を頂く事が出来ました。御礼申し上げます。これを機会に頑張りますので、よろしくお願い致します。

ミステリー-I
吾田 弘子
現実の物の形や心象を現実ではない空間に置き替えて描くことで不思議な空間が生まれると思っているのです。その非日常空間のミステリアスな世界を楽しみながら、イメージがふくらんでいくのが楽しくて、夢中で描いています。我を忘れる時間を持つてることを感謝しながら、これからも努力を重ねていきたいと思ひます。

FUGEN・湯仰
草間 俊雄
災害後の森林を復元することにより、海も豊かになり魚類も増え、人々に潤いをもたらす。ここ数年この想いをテーマに我流で描いてきたが、絵画としてこれの良いのかと常に疑問を抱いてきた。しかし今回の受賞でなんとか前進できそうに思える。今後は新しいテーマも加え、より一層絵画に勤しみたい。

受賞作品 自作自評



特選 奏 F100
小川 エリ



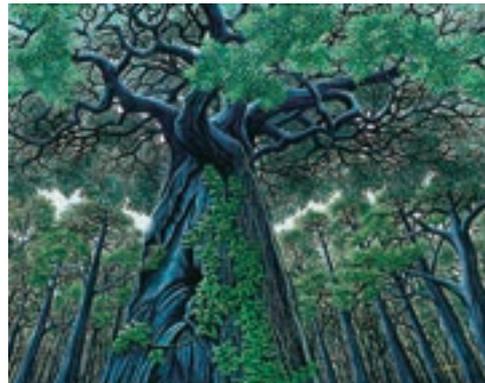
特選 神無月Ⅱ F100
さとうのりこ



特選 MIYABIⅣ F100
久我 佳恵



特選 干し大根Ⅱ F100
田上 俊一



特選 森の主(共生) F100
田原 馨

MIYABIⅣ

久我 佳恵

私は障害者で大きな絵を描くのは大変ですが、心機一転新しい気持ちで一生懸命に描いた絵が初めて特選を頂きました。この絵には明るく生きていく喜びがこもっています。絵がこれからも私の生きがいであり続け、また観る人に勇気と元気を与えられれば幸いです。

神無月Ⅱ

さとうのりこ

蓮に魅せられて25年、「自己表現」において悩み、例年なら行かない10月に蓮池を訪れました。するとそこには、枯れてお辞儀をした蓮の葉と水面とそこに映る空がありました。そこで初めて私は、夏の盛りに花を咲かせているだけが、蓮の美しさではないことに気づき、何とかそれを画布に表わそうと試みた作品です。

奏

小川 エリ

スペインを訪れた後、突然今までの画風を変えました。スペインの翳に惹かれた私なりの陰翳礼讃でしょ

うか？

モチーフは一貫して音楽と人物。夢と現実の交錯する空間でこれからどんな風に奏でますか…。

更に自分の世界を深めていけるよう精進したいです。

森の主(共生)

田原 馨

風雪に耐え抜いた巨木、それに寄り添うように、ひたすら天空の光を求めて背伸びする木々たち、ある種の人の生き様にも似た森の営み、そのたくましさに感動を覚え、絵に表現しました。観る人にとっても共感が得られるよう意識し描いたつもりです。

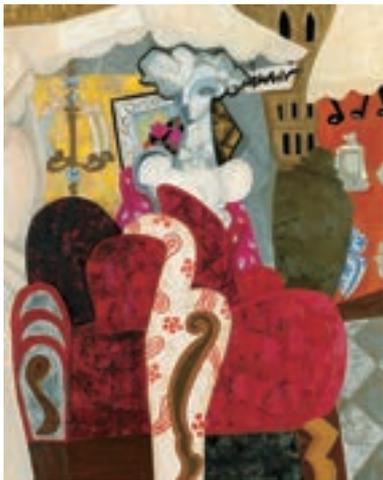
干し大根Ⅱ

田上 俊一

農家の軒下に吊り下げられた大根が、日差しを浴びて日々変化していくさまはとても面白く、立ち止まって描きたくなった。干し大根を通して、移りゆく時、生命の尊さ、懐かしい故郷、人々の暮らしなど様々なものを感じることができた。

自身のイメージを大切に、素直な表現ができるよう一層努力していきます。

受賞作品 自作自評



特選 シャンゼリゼの骨董市 F100
野久保 由美子



特選 空の翼(4) F100
木村 民治



特選 村の入口(3) F100
高橋 明美



特選 悠久の鼓動Ⅲ F100
的場 五十彦



特選 みどりの中の保育園Ⅱ F100
高橋 徳子

村の入口(3)

高橋明美

樹間の向こうの画面に、希望を込めて描きます。形を決めすぎず、流れに身を任せることが、表現のヒントになるように思います。自由に形や勢いを変えながら、今しかない瞬間を大事にしたいと思います。

いつか特別な私に出会えるよう描き続けたいです。

空の翼(4)

木村民治

「空の翼」は様々な思いを抱えて未知の世界へ飛び立つとうとするかつての自分の姿。

不安、挑戦、願望、夢：一枚のキャンバスに詰め込めるだけ詰めこんだら、おもちゃ箱をひっくり返したような絵になった。

あわてて、余計なものを削ぎ落としたつもりだが…。

受賞を糧に、新しい「空の翼」を探りたいと思っています。

シャンゼリゼの骨董市

野久保由美子

入選17年目に特選受賞の榮に浴び感謝した。

人生の悲喜溢れる骨董品に惹かれる。昨秋パリで見た蚤の市。これだ！と心躍った。

た。

キュビズム平面化、線を駆使し、面白い形とパリの深い魅力の色を追求した。

辞めないで続けてヨカッタ。感謝しつつ命の証を謳おう。

みどりの中の保育園Ⅱ

高橋徳子

栃木県の山里に移り住んで3年余り。豊かな自然に包まれて暮らしています。

近所に保育園があり、この庭が様々な表情を見せてくれます。桜、新緑、深緑、落葉、そして冬枯れ。

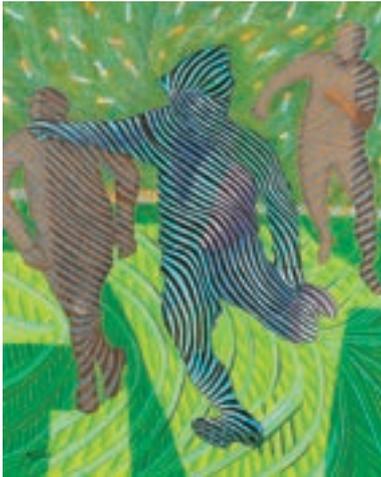
この絵は新緑が深緑に変わる頃の滴るばかりの緑に感動して描きました。今後も豊かな自然の表情を描き続けたいと思っています。

悠久の鼓動Ⅲ

的場五十彦

これまで、人体の魅力にとりつかれ、裸婦像ばかり描いています。最近では現実の裸体美ではなく、人類の進化的な時空間のなかで、私たち人間とは何か、どうあるべきなのかを問いかけるような表現を追求していきたいと思っています。今回の特選受賞を励みに精進して参ります。

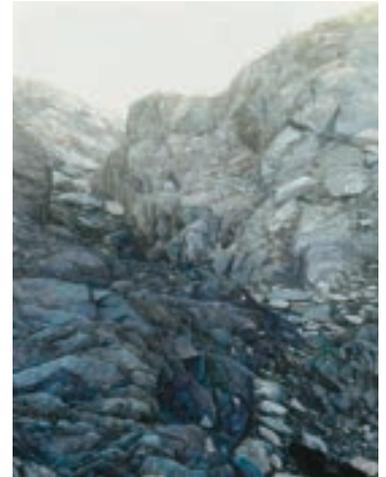
受賞作品 自作自評



特選 フィールドの風Ⅲ F100
橋本 和栄



特選 深層都市 F100
清水 尚子



特選 天路 F80
長野 哲也



新人奨励賞 卓上#1 F100
田辺 美穂子



新人奨励賞 夜の音 F100
田中 とも恵



新人奨励賞 Secret garden I F100
井上 練子

フィールドの風Ⅲ
橋本和栄
不況や震災など苦しく悲しい時、サムライブルーやなでしこジャパンが頑張っている姿は勇氣やパワーをくれました。私も落ち込んでいた時に元気になる力をもらい、その感動を表現したく作品にしました。制作中は夢中で全てを忘れさせてくれた上、特選まで頂き、サツ

深層都市
清水尚子
過去都市構造をテーマに地下野菜工場、地下街等を描いてきました。建築技術、工法の進歩により都市の高層化と地下化は目を見張るばかりです。一方で環境、災害も意識させられます。日常歩き馴れた高層ビルから地下鉄まで日々変化を感じながら生きています。現在、未来に共生し生きることが念頭に制作しました。

天路
長野哲也
美ヶ原高原の荒れた岩道の石一つ一つが、今を生きる人間に見え、見上げたその先は霧に覆われ、不安とも安らぎとも思えない世界が待っている。この先、現代社会を生きる自分が自然物を借りてどんな表現をしていくのか。それは自分でも楽しみなのです。

卓上#1
田辺美穂子
ガラスの中のプチプチ弾ける泡、キラキラと反射する光を描きたいと思いました。身の回りの物のちよつと面白いところが気になります。線や色でその部分を上手く伝えられるようになりたいです。

夜の音
田中とも恵
どこか遠い地へと、風になり水にとけ旅をする心地で、広いカンバスに向かいます。導なく終着のない旅に途方に暮れることも多々ありますが、自由で果てのない世界で漂える時間は私の幸せです。このたび素晴らしい賞を頂いたことを糧に、今後描き続けます。

Secret garden I
井上練子
色とりどりの自然の素敵な色彩や造形を、感覚的に画面上に置いていくという作業がテーマです。画面上に層を作るように、浮かんだ像を描いた上から塗り重ね、ドロインクをします。イメージを層にすることによって、全く新たな未知の世界の表現を目指しています。

カーと皆様、本当にありがとうございました。とうございました。

総評
〈彫刻〉

展示に携わって

小田信夫

第97回二科展が9月5日から17日に亘り、国立新美術館において開催された。二科会本展の展示場を都立の美術館から国立の新美術館に移して、6年目を迎えた処である。そしてこの移転を機に当時、彫刻部に於いては幾つかの運営に係わる処を彫刻部の総会などに於いて色々と検討し、全会員が一律に交代で参加する展示委員会を設置し、この委員会が展示全般に関して絶対的権限及び責任を持つこととしたのである。今回、私とその委員会の責任者として展示に係った処から展示を中心として総評を進めたいと思います。

さて、今回の第97回展の彫刻部の会場構成が如何なるものか。この数年、数回の展覧会の経過の内に、一因としては会場の制約に由る結果とも考えられるが、会場自体を定型化する様な誤解に基づいた観念に囚われていた様に思われた。二科の彫刻は素材は基より多様な表現による処に大きな特徴があり、本来動的である筈の二科会彫刻部に相応しい展示会場にすべく、その努力の跡が見受けられた様に思える。ある意味幸運なことに展示に当たり、作品の大きさや質に恵まれた点もあったと考えられるが、そしてその作品群は創意に於いて多元的な広がりを示し、その存在を具現化するに至っている様に思えた。

尚、会場全体を見通せるところから各展示場の雰囲気との対比も窺えるなど、結果として二科彫刻部の特徴である個々の特徴ある主張が混合した様子の顕著なるところも浮彫にされたと思えます。又、展示を計画した側の予想と実際の来館者の動向の違いや、色々な出品者の自己のイメージを具現化するべく作られた作品、又、そこに込められた作者の思いを読み解く様に観賞する様など、私自身にとり例年より色々と楽しめた今年の二科展であった。



彫刻部会員 審査室にて



日置 万里 (彫刻)

会員になって

土の温度と滑らかな質感が好きです。絶対的な質量を持つ彫刻という表現に向かいながら、実態を持たない揺れる心や暖かい匂い、過ぎゆく時間などを形にしたいと思っています。喉のずっと奥胸の近くが痛む時、自分の非力さを感じながらヒトとは何かと考えます。強くしなやかでその奥に揺れる灯を持つような作品を、願わくば傷みを持つ心に届くようにと制作していきます。

審査
〈彫刻〉

搬入受付から審査、展示へ

島田紘一 呂

8月23、24日に搬入受付が行われました。一般出品者の中には彫刻として受け付けることが難しい、あるいは出来ない応募が数点ありましたが、対応した会員が解り易く説明し納得して辞退していただきました。今回で国立新美術館も6回目、搬入、受付ともスムーズに進みました。

25日は、出品者の経歴、出品回数などは伏せて入落審査を行い、会員の3分の2の挙手で入落を決めます。どちらにも満たなかった場合は再審査を行い、この時初めて作品説明、出品回数、経歴などを示したうえで過半数で入落を決めます。若い出品者の中には今までの彫刻の概念とは違う作品も見られ、二科会がどう変化していくのが楽しみです。

26日は授賞会議、投票はノミネート形式で行われ、一般出品者と会友出品者のトップによる二科賞選考が行われます。会員全員で多くの議論の末、今回は彫刻部として、二科賞にはどちらも届かないと言う事で、該当者なしとなりました。

9月4日、展示のコンセプトは同じ作者が前年置いた場所と重ならない様に、特別席の様な場所が出来ない様、展示委員が立てた展示計画に基づいて会場に運び込みます。委員は20名、2年間ですが、10名ずつ1年ずらせてあるので、2年目の10人が抜けると新しく10人が入り、順次会員全員が展示に携わることとなります。

A室からF室、野外展示場に受賞作品が入るようになり、又ギャラリートークがスムーズに進められる様な配置も考慮しながら計画を立てました。配置後、陳列委員が再度確認をした後、陳列委員長の許可を得て微調整を行います。

今回の陳列は、他の会からも評判が良かったと聞いています。

100回展に向けてより良い会場作りを行っていきましょう。

第97回二科展
受賞者氏名(彫刻部)

文部科学大臣賞

島田 紘一 呂(東京)

二科賞 該当者なし

ローマ賞

上田 快(山梨)

彫刻の森美術館奨励賞

中畑 良 孝(神奈川県)

会員賞 該当者なし

会友賞

山中 洋明(広島)

長谷川 俊廣(愛知)

中村 淳子(岐阜)

特選

梶 彰平(神奈川県)

本多 紀朗(大阪)

佐々木 友二郎(神奈川県)

石川 慎平(東京)

藤岡 浩二(香川)

新人奨励賞

大野 将章(東京)

会員推荐

日置 万里(東京)

会友推荐 該当者なし



会場風景 1階

受賞作品 自作自評

彫刻の森美術館奨励賞 なるばーな
中畑 良孝

ローマ賞 礎 上田 快

礎

上田 快

いにしえから、存在し続けている遺跡の礎のように、ただそこに存在しているということを実感できる作品であればと願っています。

なるばーな

中畑 良孝

この作品は、何かやってやろうという事はなく、途中なんやかんやあったものの、自身に素直になつてできた作品だ。それがこういう形で認められた事は単純にうれしいです。しかしこの結果に満足せず、一つの通過点として今後も制作できたいと思います。

整体師―施術前に気を入れる―

山中 洋明

気とは目に見えないが確実に存在し、人間の精神力を支える重要な存在である。整体師野口晴哉は気によって患者の潜在意識を活用することで治療を引き出し、自らの足で立つことを促した。人々が十全に生きられる世にするには気の力が必要なかもしれない。

静思の時―2012―

中村 淳子

人は多くのものを背負って生きている。その中には目に見えるもの、見えないものがある。清浄な空間の中で真実を見出す時、我が存在が明らかになる。

今日も木と対峙し、静かに己を見つめる私が在る。

地に立つ

長谷川 俊廣

年齢が増すごとに、制作過程に於いて己を追求する内面への存在感が益々強くなり、特に大震災後、僕のできることは何か？ 考えることが多くなり、微力ながらも長く続けている作品作りを通じて活力を与えることができればと想い、制作しました。ありがとうございました。

伉儷

本多 紀朗

昨年に続き賞を頂き有難うございます。本作品の題名「伉儷」は「夫婦の仲」を意味しており、今回題材として、男性の立像と女性の座像を組み

合わせています。制作に關してまだまだ課題はありますが、時間をかけて形の強さや量を感じる制作を目指したいです。

A・2 躊躇う者 彷徨う者

梶 彰平

作品が入選、そして特選を頂いて、美術館で遠くからこの作品を見たとき、立ち尽くしたり、必死に何かを求めたりと、自分の負の姿をぶつけられた気がした。自分の作品に、題名に当てられた。凄く恥ずかしく思った。この感情は次の作品に生かそうと思う。感謝。

楔 -super delicate-

石川 慎平

ファッションの要素と彫刻の要素の融合を試みた作品です。現代人が彫刻に臆することなく、親近感を覚えられるような等身大の人物像の存在を作りたいと思いました。

厳選!! 寝技シリーズ

「わきがため」
佐々木友二郎

自分の作品を「絡み合う二匹のツギハギのネコです」と説明する。する

と大抵「あれネコなんだ」と言われる。私がいくらネコだと言ったところでウマやタヌキに見えるのなら、それはやはりウマやタヌキなのでしょう。

若い風

藤岡 浩二

制服のブラウスを着た女生徒の姿をかりて、若くて凛とした表情を表現したいと思って制作しました。

自分自身では拙い個所が気になっていますが、肩の力を抜いて制作できたことで、ゆったりとした空間を演出できたのではないかと自己満足しています。

空と海の出会った

大野 将章

私は船とそれのある風景をイメージしながらこの作品を制作しました。船と自分の中の何処かにあった風景とが上下で一つのものになり、その間に生まれた隙間がこの作品の題名になりました。この作品は私が持つ空と海という大きなものへの憧れだと思っています。

受賞作品 自作自評



会友賞 地に立つ 長谷川 俊廣



会友賞 静思の時—2012— 中村 淳子



会友賞 整体師—施術前に気を入れる— 山中 洋明



特選 楔 -super delicate- 石川 慎平



特選 A:2 躊躇う者 彷徨う者 梶 彰平



特選 伉儷 本多 紀朗



新人奨励賞 空と海の出会うとこ 大野 将章



特選 若い風 藤岡 浩二



特選 厳選!! 寝技シリーズ 「わきがため」 佐々木 友二郎



セレモニー

NIKA
97th
2012
event
memo

テープカット 9月5日

写真右からデザイン部 今村昭秀、国立新美術館館長 青木保氏、二科会理事長 田中良、NHK厚生文化事業団理事長 浅谷友一郎氏、彫刻部 菅原二郎、写真部 森井禎紹



懇親会 9月5日 リッツカールトンホテル



授賞式 9月5日 国立新美術館3F講堂

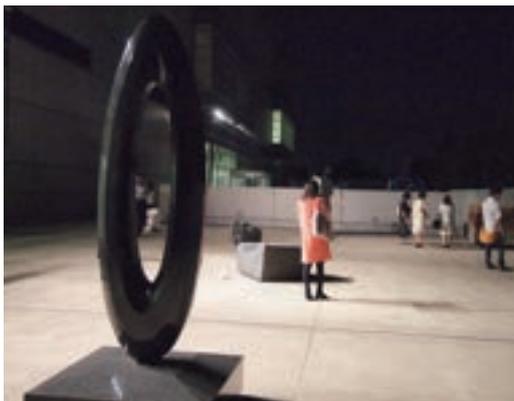
イベント 広報



講評会 9月5日



ギャラリートーク 9月5日・9日



ナイトミュージアム 9月7日・14日



ミニコンサート 9月14日 ハープ奏者 高江洲愛さん

二科展ガイドツアー 今、想うこと

中原史雄

「今日の集計で入場者が9万9千人だから、あと少して10万人よ。昨年よりも1万人増えているの」と笑みを浮かべて埼玉事務局長が教えてくれた。二科展もあと2日の会期を残した9月15日、ギャラリーツアーのため再び会場へ出向いた時のこと、その一言が気分をポジティブにさせてくれたのだった。

「こんな公平に、オープンに審査しているとは知らな

かった」と会の変革について語ったのは、今回の外部審査員として依頼した、多摩美術大学教授で美術評論家の本江邦夫氏。審査が終

った後の感想である。思い起こせば5年前のこと。会の体質を変えるにはどうすればいいか。現在の田中理事長を座長にして、委員会で議論を重ねたもので、本江氏の言葉を聞き感慨もひとしおだった。

さて、さて、やっと獲得した二科展の透明性ではあるが、そろそろ大切なことなので、あえて提言。何でも挙手で決めることがいい

のか、芸術表現の世界を活力あるものにさせるのかというところ。検討の要ありと思うのだが……。

当日の午後3時からおこなったギャラリーツアーは、70名を超える参加者があつて、ひとまず胸を撫で下ろした。絵画は私が担当、彫刻は吉野毅氏にお願いし、作品を前に合わせて1時間の解説だった。

ところで、イベントについてだが、展覧会初日にギャラリートークと作品講評会、9日にもギャラリートークをおこなっているが、どちらも全国から集まる出品者に向けての企画である。他方ギャラリーツアーは、

出品したいと思っている人達の背中を押すためで、外向けのイベント。出品者を増やすのが目的でもある。だからツアーという名称と広報、それぞれをもっと分かりやすくしたいものだ。

今までになかったような表現の作品も、少しずつ増えてきた二科展。しかし、何と言っても織田廣喜という巨きな存在を失ったのも事実である。私たち一人一人がより「表現を研く」求められるのはそのことだろう。



ギャラリーツアー 絵画

ギャラリートークから 前田忠一

まだ残暑厳しい9月9日、彫刻部のギャラリートークが、参加者58名のもと行われました。今回は彫刻部代表挨拶に島田紘

一 呂理事が立ち、司会は幡青果、三宅一樹両会員、サポートメンバーとして8名の会員・会友の方々の協力を得て開会しました。今回のトークは受賞者から選出というスタイルに囚われず、幅広いジェネレーションと、偏らない素材別に作家を選出。美大生の内藤裕子さん(木彫)、大学卒業後仲間とアトリエをシェア



ギャラリーツアー 彫刻

しながら制作している藤沢恵さん(石彫)、会員推薦の日置万里さん(石膏)、6年振り出品の阿部鷲丸会員(木彫)、鍛金と木彫2点出品の綿引道郎参与の5名でした。

トーク作家を以前の6名から1名減らしたのは、各作家の持ち時間を長くし、質疑応答に重点を置き、活発な発言を促したいという思いがあったからです。そのため布石として、配布する資料は作品の説明ではなく、アトリエ風景、使用する道具の写真、それにニュースソースとして幾つかのインタビュー記事を用意しました。作家の持ち



ギャラリートーク 彫刻

時間が増えたので心配もりましたが、機転や配慮の利いた司会の話術に大変助けられ、概ね好評の声がアンケートに寄せられました。「若い作家さんの話は素直で清新な感じがとてもよくわかり面白かった」「作家の人間性にふれ、作品に対する思いや技法が聞けてよかった」などの感想に加え、「また参加したい」といったような感想も多く寄せられました。彫刻部のギャラリートークも、確実に会の催しとして浸透していることは喜ばしいことです。来年も多くの皆様の御協力を得、客の心を掴み、ひとりでも多くの二科ファンを作りましょう。最後に関係者の皆様ありがとうございました。



作品、触っても良いんだって!

搬入
〈絵画〉

搬入状況を見て

大隈 武夫

新美術館に直接搬入される人は全体の何%か。全体に業者搬入が多く、昔の都美館の頃とは比較にならないほど、個人搬入を目にするのが少ないが、気付いたことを挙げたい。

会友、一般出品の方をお願い。

一、出品規約をよく読んで出品してもらいたい。

二、出品規定のサイズを守る。特に既存キャンバス以外のフリーサイズ作品は注意して下さい。

三、額装は3cm以内幅の仮ブチを付ける。画材屋さんに伝えてもらいたい。

新美術館に業者が直接搬入する中に規定オーバーの作品が審査の時に見付けられた。その中に優秀な作品があつて残念だった。1点だけ出品し落選した人も多数あり、もう1点でも出品していればとの声も。これを初出品者にどう呼びかけるか。2点以上出品されたらもっと高い評価が得られると呼びかける方法を考えねばと思う。

グループ搬入される群馬



個人搬入受付風景

支部、都内からも業者搬入され本人が受付手続きに来る人もある。これは推奨したい。注意やアドバイスもでき、また出品作品の搬入状況も解る。搬入受付作業を会員多数が担当し動いていることをもっと出品者に知ってもらうことも大切だと思っている。

お知らせ

支部展・個展・グループ展の案内を二科会HPに掲載ご希望の方は、DM(案内状)などに、〈HP掲載希望〉と明記して二科会事務所宛てに郵送・FAX又はメールにてお知らせください。

nika@nika.or.jp



ショップ・4部参加のチャリティーコーナー



被災地児童支援・チャリティー活動報告

川内 悟

原発事故の影響に未だ直面する被災地の子供達の思いを、絵画制作を通して世界に伝え、また子供達の未来に明るい希望を感じてもらえたらとの願いで、今年度は〈未来の夢のまち〉をテーマとして縦3m横8mの大きな画面に5・6年生合同の75名で挑戦してもらった。共同制作の協力によって大作が完成する感動を、参加した子供たちから聞くことができた。

大作〈未来の夢のまち〉を、第97回二科展の会場に展示することができ、入場者に

深い感銘を与えた。この活動の記録は、〈被災地児童作品特別展示〉の冊子を制作し、活動に協力頂いた各方面にお届けした。また、絵画部の色紙、彫刻部の小品、ドローイング等、多数の作家の寄贈によるチャリティー活動も恒例となったが、本年はさらにデザイン部に次いで写真部の参加を頂き、一層に支援活動の成果が上がった。今後も美術団体としての社会貢献の機会を得ていきたいと考えている。

未来の夢の町

私は、このような大きな紙にみんなで絵を描いた事ありません。未来を想うして、この町がこうなつたらいいなという心をこめて描いたり、今までで一番じょうずな絵を描いたりして、かんしゃの気持ちと、願いをこめて私は、描きました。きつとみんなもそのような気持ちで描いたんだと思います。だからこそあんなにじょうずに絵が完成したんだと思います。めつたにない経験をさせていただき本当にありがとうございます。私たちが大きくなるまでには、みんなで協力した絵みたいな町になってほしいと思いました。本当にありがとうございました。

五年 庄司 七海



織田廣喜先生 墓参の報告

須藤愛子

今年7月23日に、織田先生の御子息きじ男さんと一緒に織田廣喜美術館に隣接している長源寺(菩提寺)に織田廣喜先生の納骨に行つてまいりました。故郷の山波に抱かれて先生は安らかに眠りになっていらつしやいます。

宗教法長 長源寺
住職 土師祥信
福岡県嘉麻市上臼井817-1
0948(62)2166

織田先生の墓前に多くの方々が参拝なさりたいと伺いましたので、御案内申し上げます。

また織田廣喜美術館では
嘉麻市立織田廣喜美術館
福岡県嘉麻市上臼井767
0948(62)5173



「田園の裸婦」 1997年 油彩 300号

織田廣喜追悼展

日時 2012年9月15日~12月23日

場所 東京ミュージアム

東京都調布市仙川町1-25-1 03(3305)8686

事務局だより

「初めて秋の二科展を見に来ました」と、赤いチケットを大切そうに持って来られた多くのお客様を含め、沢山の来館者を迎えた第97回二科展は、田中理事長より大入り3回も出る程の盛況で(表1参照)無事に終了することが出来ました。

親子入選を果たし喜び倍增の秋田県の室永さん、今年落選にもかかわらず会場を訪れ、千葉の会員に励まされて、新たに来年に向かう元気を得たという26歳の女性、被災地児童の特別展示の前で感動のあまり男泣きをされた福島県の方など、二科展会場では色々なドラマが見られました。これも常日頃から二科展の成功に向けて尽力された各担

当(作品集)展示広報・義援の先生方、そして展覧会に関わるスタッフのチームワーク等の成果であったように思います。

また4部門の先生方にご協力頂きましたチャリティーコーナーは連日、大盛況で、ご購入されたお客様から「自宅のこんな場所に飾りました」等の嬉しいお手紙を後日いただきました。改めて関係者の皆様には御礼申し上げます。

若手育成に多くのチャンスを！ということ、来年の第98回二科展は今まで30歳未満であった出品料半額の規定を、35歳以下に枠を広げることになりました。

また開設以来、会員の小品展示で好評を得ておりました帝国ホテルの二科サロンでは、平成25年は受賞者奨励企画として下記の通り第97回二科展受賞者の作品展を実施する予定です。

入場者	単位(人)	昨年比
一般当日	4,306	292増
前売り券入場	5,244	±0
高校・大学	437	30増
メトロコマース	1,247	57増
チケットぴあ	142	57増
団体割引	0	65減
企画割引	49	205減
新聞社優待券	5,393	
有料入場者	17,392	5,504増
無料入場者	85,232	8,486増
入場者合計	102,624	13,990増

表1

事務局は山積する諸事に追われる毎日ですが、理事長からはいつも心に響く温かいお言葉をかけていただき、また皆様からはご指導ご鞭撻を賜り、大切な人をおもうやさしい心だと感じております。いたらぬ点多々ありますが、これからも宜しくお願いいたします。事務局長 埴 珠世

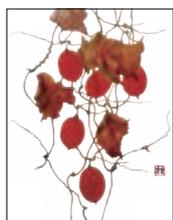
帝国ホテル二科サロン

- 第1期(1月22日~4月9日)
浅井泰雄 小島義男 廣木秀夫
渋谷良子 世古明子 宮地優子
秋元克文 井上練子 高橋徳子
野久保由美子 吉田豊彦 岩百合
- 第2期(4月9日~7月9日)
山崎美恵子 石崎瑠子 根木悟
小野由紀子 吾田弘子 君塚彦四郎
木村民治さとうのりこ 田中とも恵
田上俊一 橋本和栄 的場五十彦
- 第3期(7月9日~10月8日)
石本香織 鈴木三喜男 光谷良一
田中昌美 高見愛 片岡佐智子
田原馨 鈴木真木子 岡部桃子
合田紘露 胡田辺美穂子 久我佳恵
- 第4期(10月8日~1月14日)
長嶺宏子 稲増克彦 佐々木実
吉金幸枝 鳥谷啓子 山田武雄
牟田志津子 長野哲也 竹川洋子
小川エリ 高橋明美 草間俊雄
清水尚子
- (期間)メンバーは変更になる場合があります

編集後記

第97回展も盛会裡に閉会した国立新美術館から、引き続き巡回展の地へ移動しています。

会期中の某日、大先輩が二科展の若い出品者であった昔日の話を伺う機会がありました。東郷二科の猛者会員たちの興味深い逸話に、ある時代の二科の匂いに浸るひとときでした。二科を牽引してきた多くの先輩作家があつて、100回の会期を重ねようとする今があるのだと改めて思います。紙面でも、先輩にあの頃、この頃(私の二科)を語っていただけたらと考えています。(N)



カット 松室重親

編集委員

- 委員長(総) 野村 みそら
委員(総) 本間 千恵子
" " 深見 まさ子
" (彫) 幡 青果
" " 宮澤 光造

二科会

平成二十四年十一月十六日発行
〒160-0022 東京都新宿区新宿4-13-15
東京船新橋区新橋501号室
電話 03(3335)6646
FAX 03(3335)4768